

令和3年4月7日(水)

## 式 辞

花の季節から新緑の季節へと、今年、うつろいの速い時は、立ち止まることなく駆け抜けていきます。校庭の樹木も、新緑の青さを競うように新しい芽をふき、若さあふれる陽春の本日、多くの保護者の皆様の御臨席を賜り、ここに千葉県立白井高等学校第三十九回入学式を挙げていきますことに、心より感謝申し上げます。

ただ今、入学を許可しました223名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。職員、在校生一同、心より皆さんを歓迎いたします。皆さんも新しい希望に満ち、躍動する心で、今、入学式に参列していることと思います。これから三年間の旅路に出る第一歩の日、決意はできておりますか。

皆さんの母校となる白井高校は、地域の大きな期待と要望を受け、昭和五十八年に開校いたしました。以来、「自ら律（ただ）せ」を校訓として、幾多の先輩たちが努力を重ね、立派な伝統を築いて参りました。皆さんにも、それぞれの高校生活に目標を持ち、悔いのない三年間を送ることで、この伝統を受け継いでいってほしいと願っています。

さて、私もかつては、とある県立高校の新入生でありました。当時、夢中になった本に吉川英治作「宮本武蔵」があります。武蔵の残した言葉は様々ありますが、私の心を今も捉えて離さないのは「身を浅く思い、世を深く思う」という戒めです。少しばかりのことでいい気になってはならない、自分が絶対正しいと決めてかかってはいけない、といった意味だと、私は理解しています。決して卑屈になるということではなく、謙虚に自分を見つめる大切さを物語る言葉です。今日は、新入生の皆さんにこの言葉をお贈りするとともに、皆さんが謙虚に学ぶ高校生活を、私たち教職員が全力で支援することをお約束したいと思います。

保護者の皆様、お子様の御入学、誠にありがとうございます。御多用のところ、御列席いただき、ありがとうございました。本日から、大切なお子様をお預かりすることとなりました。もとより全力を尽くす覚悟ではありますが、学校だけでは背負いきれない、複雑な教育課題が増えていることも事実です。学校と家庭、そして地域の教育力が補完し合い、お子様の成長を促していく白井高校でありたいと、私は切に願っております。なにとぞ、御理解、御協力、そして御支援いただきますよう、お願い申し上げます。

結びに、お祝いのメッセージを賜りました関係者の皆様に、衷心より感謝申し上げますとともに、新入生の高校生活が実り多いものとなることを祈念して、式辞といたします。

令和3年4月7日

千葉県立白井高等学校長

野澤 則之